

マナの家

児童発達支援・放課後等デイサービス活動プログラム

I 定例日課

生活介護		放課後等デイサービス		(児童発達支援)	
8:00	【迎】	8:00	【迎】	8:00	【迎】【家族と来所】
9:00	職員ミーティングケース会議	9:00	職員ミーティングケース会議	9:00	健康チェック
				9:30	職員ミーティングケース会議
9:30	朝のオリエンテーション 体操	9:30	朝のオリエンテーション 体操	9:30	朝の始まりの会 自由遊び
				10:00	水分補給
10:30	海岸歩行	10:30	海岸歩行	10:30	課題遊び
11:30	手洗い、着替え リラクゼーション	11:30	手洗い、着替え	11:30	朝の終わりの会 片付け
12:00	昼食・歯磨き 休憩	12:00	昼食・歯磨き・休憩	12:00	昼食・ 歯磨き休憩
13:00	生活作業・創作活動・ レクリエーション・入浴 等	13:00	昼のオリエンテーション		お昼の始まりの会
		14:00	【迎】活動		療育
		14:30			夕の終わりの会
15:30	余暇・ ティータイム	15:00	おやつ・活動・等	16:00	個別保育 自由遊び 【送】 【家族による迎え】
16:30	帰宅準備・夕のオリエンテーション)				
17:00	【送】・【家族迎え】【自由保育】				
18:00					
19:00					

II 年間定例活動（放課後等デイサービス・児童発達支援）

1月	○お正月○お屠蘇○書初め○大かるた・中かるた・小かるた大会○凧あげ○初詣○七草がゆ○鏡開き○お汁粉 ○七草がゆ○年賀状の宝くじ○松飾納札○受験に向けて（はちまき作り、だるまの目入れ、合格祈願 など） ○成人の日○豆まき練習○氷遊び
2月	○節分○立春○バレンタインデー○建国記念日○天皇誕生日
3月	○ひな祭り○ホワイトデー○梅見○溪流釣り○菜の花○合格祝賀会○お彼岸支援○予餞会○春休みデート大会 ○いちご狩り○土筆摘み
4月	○お花見○夷隅鉄道電車の旅○入学式
5月	○端午の節句○鯉のぼりづくり○背比べ○柏餅○相撲部屋訪問○鯉まつり○母の日○チューリップ祭り
6月	○父の日○あじさい杯○オタマジャクシすくい○カラフル傘○花菖蒲○あじさい○水たまり遊び○どろんこ遊び あじさい杯（お魚釣りゲーム、宝探しゲーム、紙相撲大会）
7月	○赤いスイカ黄色いスイカ○風鈴始め○巨大テルテル○ザリガニ採り○七夕○暑中見舞い○虫取り○うちわづくり ○ひまわり○海水浴○高校野球観戦○地元高校生との交流○ミニ四駆大会○海釣り○メイクアップクラブ○デ ート大会○学童コラボ○ダンス大会○カラオケ○九十九里ふるさと祭り○漁船クルージング○残暑見舞い○肝試 し大会○お盆○終戦の日○キャンプファイヤー○川遊び○女子会○男子会○流しそうめん○キャンプ○マナの縁 日
8月	
9月	○福祉ねっとまつり○お月見会○鈴虫○サンマの日○風鈴納めの会
10月	ときがね子ども園バザー○栗拾い○芋掘り○銀杏拾い○芸能ボランティア○紅葉メーター○新米まつり
11月	○稲刈り○ときがね幼稚園バザー出店○特別支援学校文化祭出店○紅葉狩り外出○西の市（熊手・切り山椒） ○干し柿づくり○クリスマス実行委員選挙
12月	○年末ジャンボ宝くじ○アドベントカレンダー○年賀状作成○クリスマスカード作成○クリスマス準備○クリ スマス会○燭火礼拝○デート大会○街かど探検隊○年忘れ餅つき大会○ゆく年くる年

Ⅲ 児童発達支援基本プログラム

発達年齢		発達段階に応じた支援		
		支援プログラム	発達課題	二次元の課題
0 歳児	前期	『子どもが受動的な世界のまま生活の主人公となれるような第二者のいる楽しくゆたかな正面の世界を提供しよう』 ●子どもの正面から興味を引き出すような働きかけ ●支え座りの姿勢から正面の世界の一点に視線を向けてゆけるような活動。	・正面の成立 ・第二者の形成 ・エンゼルスマイル ・人に向かう心の高まり ・寝返り支援 ・生活リズムの成立 ・正中線の成立 ・自分を手助けしてくれる大人と関わろうとする気持ちの芽生え ・意志の芽生え	「快」⇔「不快」 「覚醒」⇔「睡眠」 「対」動作 ・関節の 回転可逆動作 ・身体器官の可逆動作
	後期	『子どもが主体的に外側の世界につながりたい気持ちを高めよう』 ●子どもを中心においた周囲360度の環境づくり正面ではない角度への興味の引き出し。 ●自由な探索活動の保障【探索の結果を明確に認識できるような「物」を意図的にちりばめた室内環境の発達の整備】 ●主体的な手・指の動きと目線の一致 ●片手で持つ・指でつまむ・両手で持つ活動【ビー玉つまみ、ペグ差し、ペグ抜き】 ●支援者から仕掛けて物の「受け渡し」が成立するような機会の提供（連結可逆操作）【あげる⇔ちょうだい】 ●対感覚の強化【メトロノーム・ゆらんこ・抱っこ】 ●期待感を作り出す遊び【イナイナイパー、一本橋など】 ※子どもの行動を引き出す間	・物・人に向かう主体的な心の高まり ・五感への働きかけ ・線としての追視 ・目的と移動 ・末端操作系の独立とその活用 ・原子反射が脳の統御に置き換わる ・受け渡し ・欲求の強化 ・定位の強化 ・指差し（共同注意の萌芽） ・知っているものと未知のものを分けける ・見えない世界への期待	「目的」⇔「手段」 ・物や出来事を介した三項関係 ・関節が体幹から独立してくることによって左右非対称の動きができるようになる（片方の手だけを動かす、左右の手を別の目的のために使う→二次元可逆操作へ） ・外側にある人・物への 連結可逆操作 ・二分的内面世界の成立
1 歳児		『大人の支えを得ながら内面の世界を広げてゆく』 ●必要な感覚刺激の得られる活動。 ●ボディイメージをつかみ取る活動【スキンシップ・くすぐり遊び・布団でぐるぐる巻き、床の上をゴロゴロ・鏡】 ●言葉で伝えあう楽しさがもてるように ●自己主張を強める活動 ●「○○じゃなくて△△だ！」をしっかりと主張できるような活動。（自分で自分の身体や気持ちを使いこなす力は拒否によってより手ごたえをもって実感できる）【子供の駄々こねを意図的に引き出すような選択肢の提示】 ●豊かな生活概念の獲得【生活の中での養育】 ●粗大運動を主体にして微細運動へ【粗大運動による正中線の強化】 ●自由な探索活動の保障【探索の結果が得られるような「物」や「様々な感覚刺激」を意図的にちりばめた室内環境の発達の整備】 ●目的意識を持って扱う道具を用いた遊び ●境界線遊び	・頑強さの獲得 ・強烈なイヤイヤ期、駄々こね期 ・完全な欲求充足を求める気持ちの強まり ・大好きな行動や遊びの繰り返し ・感情（喜怒哀楽）の激しさ ・物の受け渡しから話し言葉による応答へ ・姿勢・運動・歩行が確からしさを持ち始める ・固有覚・前庭覚・触覚に個人差が現れる ・手指と道具の連結 ・座位の自立 ・「○○じゃなくて△△だ！」の中で心の中に対をつくってゆく。	・一次元可逆操作（○○ではない△△だ）の獲得 ・二分的内面世界の確立
2 歳児		『大人に寄り添ってもらいながら自立へ』 ●節目（始まりと終わり）をつくって遊ぶ【わかりやすい簡単な後片付けが必要となる遊び】※出したものを元に戻す行為の強化（ABAで大人が評価） ●数唱と数の分解構成に挑戦できるような活動【積み木遊び】 ●複数の物事を同時に抱え込もうとする気持ちの育成【均等配分で余った分を自分のものとする行為の励まし】 ●対の感覚を強化する運動【トランポリン・ブランコ・ムーブメント】 ●話し言葉が発展（意味と意味がつながって叙述が成立し始める）【二歳児の読み聞かせ】 ●生活用具の使用【主となる行動への意欲が弱らない程度に訓練】 ●目的を決めて頑張ることのできる簡単な遊び、わずかに	・粘り強く一つの物事に集中する力の獲得 ・独り占めにしようとする気持ち ・自分への気づき ・大きいもの高いところに向かう志向 ・二文脈の成立（二語文の形成） ・比較 ・一番へのこだわり ・人見知り ・主客転倒→逆の発見（方向としての逆・もう一方）。※四五歳児の表と裏のトータルの認知につながってゆく ・対比的認知の発展 ・行動の修正 ・方向転換 ・一つのまとまった概念の把握 ・行きつ戻りつしながら育ってゆく不安定期	・二分的内面世界の活用

	高めの目標を設定してやりきる活動【つき山登り、砂場での山づくり】 ●具体的な見通しと期待感を生み出す生活づくり【カレンダーでカウントダウン】 ●嵌め板課題「そっちじゃないこっちだ」【おもちゃ探し】 ●「もう一回」を引き出す【量的に拡大してゆく遊び】 ●方向を転換することの楽しさ。【滑り台】 ●逆の発見 ●他者に伝えたい気持ちの高まり ●描画（生活の中に表現創作活動を）～円錯画【落書き遊び】 ●勝ち負けのはっきりする遊び ●手ごたえのある遊び、活動 ●「そっと」の芽生え（手指の巧緻性） ●「つもり遊び」から現実を模倣する「見立て遊び」へ ●相手の意図を読み取る遊び ●目的化された時間をつなぎ合わせて生活できるように ●言葉の土台となるような感情を共有できるよう支援 反復動作遊び～より速くよりゆっくり（反復速度に変化をつける） 生活再現遊び ●リトミック～	・中間構成ができないことでイライラも募る ・発達の抵抗を強く求める ・可逆の指差し ・自分の力で完結できる遊びを繰り返すことの大切さ	
3 歳児	『〇〇しながら△△する、だって◇◇だから』 ※憧れの存在になりたいけれどもうまくできない三歳児、ジレンマによる「嘘」の創造を責めない理解をベースとして』 ●三語文への挑戦【気持ちの切り替え支援】 ●利き手の確立と手指の巧緻性【鉄と画用紙の工作】 ●見立て遊びを豊かに展開させられるような活動。【おままごと】 ●基点と終点の一致した丸の羅列描画。【言葉で意味づけしながら描画】 ●自分が模倣すべき憧れの年長者との活動【異年齢児童との共同活動】 ●生活の主人公になれるような活動【子ども会議への参加】 ●信頼して任せる活動【はじめてのお留守番】 ●内面や生活を広げてゆけるよう未知なる世界への挑戦に踏み切れるような活動（課題遊び課題の設定） ●挑戦をやり遂げた後に「もっと上手に」という気持ちが生まれるような支援。【他者とする競技性のある活動】 ●イメージ（ワーキングメモリー）を持って自分の身体を動かせるような活動【リトミック→お遊戯へ】 ●活動後の自己評価を次につなげられるような支援。 ※支援者は「出来る、出来ない」という二極的な世界に子どもが追い込まれないよう配慮することが大切な時期。（できる出来ない以外の意味を支援者との間で創造し豊かにできるように） ●二つの動作をまとめ上げる力を発揮できるような活動【三輪車】 ●自他のゾーニング活動【段ボールハウスづくり・塗り絵】 ●表象としての言葉の概念を体験的に感じ分けてゆけるような活動【生活体験遊び、自然体験遊び】 ●自分の表現物の二次元化（活動を二次元化）【作品の揭示展覧】 ●生活の中で体験した感動を伝えたい【終わりの会での発表と集団での受け止め→集団からのフィードバック】 ●真ん中見つけ【二人の大人の真ん中で手ブランコ（物理的真ん中）・紙や粘土を寸断して数を増やそう→天秤遊び、切り絵～電車に乗りたいたい子とバスに乗りたいたい子が並んでいる絵を鉄で切ってそれぞれバスと電車の絵に張り付けましょう】※中間の世界を開拓・修正力 ●規範に合わせる楽しさ【なぞり書き・塗り絵】	・憧れ ・自分への意味づけの渴望 ・それぞれが独立した複数の概念の把握 ・二歳後半から「なんで？どうして？」質問ラッシュ ・頭足人の人物画 ・内なる世界への「挑戦」の始まり ・プライドと嘘 ・「痛み」体の内部への気づき ・動作の統合 ・目に見えない事柄をイメージする力の獲得 ・言葉の語彙が対比的に対を組み合わせながら爆発的に増加 ・三歳半ば以降に質問が活発化～積極的質問や構文力をベースに ・中間構成	・二次元可逆操作の始まり

4 歳児	『〇〇だけでも△△する』 ●「〇〇だけれども、△△しない」という逆を作りながら「〇〇だけでも△△する」をさらに確かにしてゆく【活動の内容よりも活動への参加不参加が二次元可逆操作開始の手掛かりとなることが多い、子どもの選択に意図的な意味付けができるような機会の提供】 ※拒否にもしっかり理由が構築できるよう支援 ※支援者が大人の考えをしっかりと提示してゆくことがあって二次元可逆操作が始まる段階 ●同年の友達とのルールを共有する遊び合い【ごっこ遊び】 ●年少者との異年齢集団の中で自分に年長者としての意味付けができるような活動【年少者への配膳や買い物、年少者のお留守番、年少者の面倒を見る】 ●「～こうするほうが良いのではないか」と世界を広げてゆく活動【同年集団で意思を共有できるような活動】 ●集団参加（集団競技の中で一つの目標のために力を合わせる仲間への気づき）【協議遊び～綱引き、ムーブメントパラシュート】 ●描画【物語を言葉で紡ぎながら描く】 ●行動の合間に間を設けて考えながら次の行動をとれるようになる力の発揮（行動企画力）【一本橋ラダー→ジャンゲルジム】	・意味の増加（プラス・マイナス、順逆双方の意味が増える） ・第二者の意味づけ ・引っ込み思案ではなく「すべきだけどやらない」という意図的な判断行動の成立 ・意見表明と権利擁護という視点の登場 ・大人の視点や評価を行動や思考の基準にして自我を拡大してゆく。 ・自制心の芽生え ※誇りある自制は自分の世界を修正可能なものとして広げてゆく意志を生み出してゆく ・多面的な自己への気づき ・集団への意味付け ・自己と環境、関係性の中でとらえようとする（描画では基底線や太陽、街並みや家族などの登場人物が現れる） ・個々の概念や意味がつながりあって自分と自分の生活全体がストーリーとなって叙述できるようになる ・自己制御と「間」と行動企画	・二次元可逆操作の獲得
5 歳児	『“〇〇だけれども△△だ、だって□□だから“の汎化』 ●子供同士で自由に展開する現実を真似たごっこ遊び【自由遊び】 ●地域の様々な生活風景を見聞きし体験する機会を通したリアルオリエンテーションの提供【「他のみんなのために買い物」という二次元的な目的を持った活動に誘導しながら地域外出の機会公共交通機関の利用体験の機会の提供】 ●お手伝い【拒否という選択肢を提示した中での清掃活動などへの誘導】※自宅との連携 ●全身で自然を体験【海・山・川・森・林・畑・土・風・雪・雨・夜・昼・植物・動物】 ●描画：絵具による色の変化（嫌なことでも何かを付加することで嫌ではなくなる）の理解を楽しむ力量（系列化）、多色筆記具の使用を楽しむ力（群生化、系列化）【写生や記憶や創造したイメージをモチーフとした描画】	・意味づけのゆたかさ ・リアルな生活参加 ・生活概念・感覚体験の豊かさ ・二次元可逆操作を用いた行動の動機形成を様々な場面で様々な物事に応用することですらに確かさを増す5歳児の世界 ・並列可逆操作→系列可逆操作（自己制御の理由が選択した物事と選択しなかった物事を関連付けて意味づけできるようになる） ・身体器官の供応力、末端操作系の巧緻性が高まる	・二次元可逆操作の強化
6 歳児	『教授学習の成立』 ●働くお父さんお母さんの姿を見学 ●活動の前に【オフザジョブトレーニング】 ●通信【お手紙活動】 ●冠婚葬祭への参加 ●小集団の形成 ●子どもたちだけで遊びこむ時間 ●ソーシャルロールプレイへの参加また企画への参加【夏のマナの縁日】 ●ルールに縛られる意味の発見【遠距離外出・集団競技にチームとして参加「ミニ四駆大会」「ダンス大会】 ●自分が権利を行使しながら他者の権利も同時に尊重する気持ちと内面の操作【取引支援】※意見表明・権利行使のリハーサル遊び ●思考の切り返しとトータル（ストーリー全体の）の認知によって意味づけの力量を養う【どんでん返しの童話・紙芝居】	・社会的意味づけの芽生え ・意見表明と権利擁護の実践 ・信義に厚く誠実であろうとする気持ちの芽生え ・表面と裏の意味の理解 ・表裏の転換	・二次元可逆操作の社会化

IV 放課後等デイサービス基本プログラム

発達	学年	支援プログラム	教育指導課題	発達課題
1 歳以下	小学一年～三年	●地域外出（ドライブ・歩行） ●感覚体験活動（前庭覚・固有覚・触覚） ●公園療育活動 ●自然体験活動 ●室内療育個別の付き添いによる地域体験 ●二文脈の活動と行動づくり ●はじめと終わり～行動や活動の可逆化 ●好きな行動や活動を繰り返したい気持ちづくり ●第二者との応答と共感 ※活動の二次元的な世界の獲得		・支援者との関係を通して保護的な世界の主人公として充実した時間を過ごす。 ・意思の理解（支援者による）
	小学四年～六年	●地域外出（ドライブ・歩行） ●感覚体験活動（前庭覚・固有覚・触覚） ●公園療育活動 ●自然体験の機会 ●室内療育個別の付き添いによる地域体験 ●二文脈の活動と行動づくり ●はじめと終わり行動や活動の可逆化 ●好きな行動や活動を繰り返したい気持ちづくり ●第二者との応答と共感 ※活動の二次元的な世界の獲得		・支援者との関係を通して保護的な世界の主人公として充実した時間を過ごす ・意思の理解（支援者による）
	中学生	●地域外出（ドライブ・歩行） ●感覚体験活動（前庭覚・固有覚・触覚） ●公園療育活動 ●自然体験の機会 ●室内療育個別の付き添いによる地域体験 ●二文脈の活動と行動づくり ●はじめと終わり行動や活動の可逆化 ●好きな行動や活動を繰り返したい気持ちづくり ●第二者との応答と共感 ※活動の二次元的な世界の獲得		・支援者との関係を通して保護的な世界の主人公として充実した時間を過ごす ・意思の理解（支援者による）
	高校生	●地域外出（ドライブ・歩行） ●感覚体験活動（前庭覚・固有覚・触覚） ●公園療育活動 ●自然体験の機会 ●室内療育個別の付き添いによる地域体験 ●第二者との応答と共感 ※活動の二次元的な世界の獲得		・支援者との関係を通して保護的な世界の主人公として充実した時間を過ごす ・意思の理解（支援者による）
1 歳～2 歳	小学一年～三年	●地域外出（ドライブ・歩行） ●消費活動支援 ●自然体験の機会 ●物理的な手ごたえのある活動の提供 ●室内療育個別の付き添いによる地域体験 ●二文脈の活動と行動づくり ●はじめと終わり行動や活動の可逆化 ●可逆的な遊具や遊びの繰り返しへの誘導 ※二次元的な活動の可逆化 ●子供が興味に駆られて動き出そうとするような場面づくり環境設定		・支援者との関係を通して保護的な世界の主人公として充実した時間を過ごす ・意思表示 ・反抗期支援 ・積極的な意思に基づいた行動 ・積極的な意思に基づいた行動を許容する中で充実した時間を過ごす

	小学四年～六年	●地域外出（ドライブ・歩行） ●消費活動支援 ●感覚体験活動（前庭覚・固有覚・触覚） ●公園療育活動 ●自然体験の機会 ●物理的な手ごたえのある活動の提供 ●室内療育個別の付き添いによる地域体験 ●二文脈の活動と行動づくり ●はじめと終わり行動や活動の可逆化 ●可逆的な遊具や遊びの繰り返しへの誘導 ※二次元的な活動の可逆化 ●子供が興味に駆られて動き出そうとするような場面づくり環境設定		・支援者との関係を通して保護的な世界の主人公として充実した時間を過ごす ・意思表示 ・反抗期支援 ・積極的な意思に基づいた行動 ・積極的な意思に基づいた行動を許容する中で充実した時間を過ごす
	中学生	●地域外出（ドライブ・歩行） ●消費活動支援 ●感覚体験活動（前庭覚・固有覚・触覚） ●公園療育活動 ●自然体験の機会 ●物理的な手ごたえのある活動の提供 ●室内療育個別の付き添いによる地域体験 ●二文脈の活動と行動づくり ●はじめと終わり行動や活動の可逆化 ●可逆的な遊具や遊びの繰り返しへの誘導 ※二次元的な活動の可逆化 ※活動の二次元化 ●子供が興味に駆られて動き出そうとするような場面づくり環境設定		・支援者や同時利用の子どもたち集団との関係を通して保護的な世界の主人公としての生活を充実した時間を過ごす ・意思表示 ・二重の反抗期支援【手ごたえのある生活と問題行動の鎮静化】 ・積極的な意思に基づいた行動 ・積極的な意思に基づいた行動を許容する中で充実した時間を過ごす
	高校生	●地域外出（ドライブ・歩行） ●消費活動支援 ●感覚体験活動（前庭覚・固有覚・触覚） ●公園療育活動 ●自然体験の機会 ●物理的な手ごたえのある活動の提供 ●室内療育個別の付き添いによる地域体験 ●二文脈の活動と行動づくり ●はじめと終わり行動や活動の可逆化 ●可逆的な遊具や遊びの繰り返しへの誘導 ※二次元的な活動の可逆化 ●子供が興味に駆られて動き出そうとするような場面づくり環境設定		・支援者や同時利用の子どもたち集団との関係を通して保護的な世界の主人公としての生活を充実した時間を過ごす ・意思表示 ・二重の反抗期支援【手ごたえのある生活と問題行動の鎮静化】 ・積極的な意思に基づいた行動を許容する中で充実した時間を過ごす
2歳後半～3歳	小学一年～三年	●地域外出（ドライブ・歩行） ●消費活動支援 ●公園療育活動 ●自然体験の機会 ●室内療育個別の付き添いによる地域体験 ●二文脈の活動と行動づくり ●「間」のつくりこみ ●精神的な抵抗を意味づけして乗り越えようとする気持ちの形成 ●はじめと終わり行動や活動の可逆化 ●大好きな行動や活動を繰り返したい気持ちづくり ●実力よりも誇りを大切にできるような活動 ●二つの物事を同時に抱えこむ力の強化 ※活動の二次元化	○SNSの利用管理	・支援者との関係を通して自己の世界を広げてゆく行為の主体としての充実 ・意思表示 ・反抗期支援 ・意味の世界の発展

	小学四年～六年	●地域外出（ドライブ・歩行） ●労働とその対価、好きなものの消費（家族連携） ●公園療育活動 ●自然体験の機会 ●室内療育個別の付き添いによる地域体験 ●二文脈の活動と行動づくり ●「間」のつくりこみ ●精神的な抵抗を意味づけして乗り越えようとする気持ちの形成 ●はじめと終わり行動や活動の可逆化 ●自分にできる行動や活動の繰り返しから新しい挑戦課題に向き合えるような気持ちづくり ●実力よりも誇りを大切にできるような活動 ●二つの物事を同時に抱えこむ力の強化 ●取引支援 ※活動の二次元化	○SNS の利用管理	・支援者との関係を通して自己の世界を広げてゆく行為の主体としての充実 ・意見表明 ・反抗期支援
	中学生	●性指導 ●地域外出（ドライブ・歩行） ●労働とその対価、好きなものの消費（家族連携） ●公園療育活動 ●自然体験の機会 ●室内療育個別の付き添いによる地域体験 ●三文脈の活動と行動づくり ●はじめと終わり行動や活動の可逆化 ●自分にできる行動や活動の繰り返しから新しい挑戦課題に向き合えるような気持ちづくり ●実力よりも誇りを大切にできるような活動 ●二つの物事を同時に抱えこむ力の強化 ●取引支援 ※活動の二次元化	○SNS の利用管理指導	・支援者や同年の仲間との関係を通して自己の世界を広げてゆく集団の一員としての充実 ・意見表明 ・自己像の再形成 ・二重の反抗期支援【手ごたえのある生活と問題行動の鎮静化】
	高校生	●性指導 ●公園療育活動 ●自然体験の機会 ●室内療育個別の付き添いによる地域体験 ●地域外出（ドライブ・歩行） ●労働とその対価、好きなものの消費（家族連携） ●二文脈の活動と行動づくり ●はじめと終わり行動や活動の可逆化 ●自分にできる行動や活動の繰り返しから新しい挑戦課題に向き合えるような気持ちづくり ●実力よりも誇りを大切にできるような活動 ●二つの物事を同時に抱えこむ力の強化 ●選挙支援 ●取引支援 ※活動の二次元化	○SNS の利用管理指導	・支援者や同年の仲間との関係を通して自己の世界を広げてゆく集団の一員としての充実 ・意見表明 ・自己像の再形成 ・二重の反抗期支援【手ごたえのある生活と問題行動の鎮静化】
4・5 歳	小学一年～三年	●地域外出（公共交通機関） ●労働とその対価、好きなものの消費（家族連携） ●自然体験 ●消費者自立支援 ●取引支援 ●外側の規範に合わせた自己制御	○社会規範の理解 ○SNS 活用のためのルール習得	・支援者や同年、異年齢の仲間との関係を通して自己の世界を広げてゆく集団の一員としての充実 ・権利行使と意見表明
	小学四年～六年	●地域自立外出（公共交通機関） ●労働とその対価、好きなものの消費（家族連携） ●自然体験 ●消費者自立支援 ●外側の規範に合わせた自己制御	○性指導 ○社会規範の理解	・同年、異年齢の仲間との関係を通して自己の世界を広げてゆく自立した集団の一員としての充実 ・権利行使と責任 ・ギャングエイジの形成 ・恋愛感情の芽生え

	中学生	●地域自立外出（公共交通機関） ●自然体験 ●労働とその対価、好きなものの消費（家族連携） ●消費者自立支援 ●取引支援 ●外側の規範に合わせた自己制御 ●施設内活動の企画参加 ※活動の三次元化	○性指導 ○社会規範の理解 ○SNS 活用のためのルール習得	・同年、特定の友達との関係を深めながら自己の世界を広げてゆく自立した集団の一員としての充実 ・権利高医師と責任 ・自己像の再形成 ・思春期支援 ・恋愛支援
	高校生	●地域自立外出（公共交通機関） ●自然体験 ●労働とその対価、好きなものの消費（家族連携） ●消費者自立支援 ●社会契約支援 ●外側の規範に合わせた自己制御 ※活動の三次元化	○性指導 ○選挙支援 ○社会規範の理解 ○SNS 活用のためのルール習得	・同年、特定の友達、恋愛感情を持つ異性との関係を社会規範の中で深めながら自己の世界を広げ成人後の社会参加の動機形成を行ってゆく ・権利行使と責任 ・自己像の再形成 ・思春期支援 ・恋愛の社会化
6・7歳以上	小学一年～三年	●地域自立外出（公共交通機関） ●自然体験 ●異年齢同性による集団活動 ●労働とその対価、好きなものの消費（家族連携） ●消費者自立支援 ●取引支援 ※活動の多次元化 ●オフザジョブミーティング（教授学習）の充実	○SNS の利用管理	・同年、特定の友達との関係を深めながら自己の世界を広げてゆく自立した集団の一員としての充実 ・意見表明
	小学四年～六年	●地域自立外出（公共交通機関） ●経済循環への参加と権利行使～労働とその対価、好きなものの消費（家族連携） ●自然体験 ●異年齢同性による集団活動 ●社会契約支援 ●施設内活動の企画参加 ●オフザジョブミーティング（教授学習）の充実 ※活動の多次元化	○性指導 ○SNS 活用のためのルール習得	・同年、特定の友達との関係を深めながら自己の世界を広げてゆく自立した集団の一員としての充実 ・権利行使 ・ギャングエイジの形成 ・恋愛感情の芽生え
	中学生	●地域外出（公共交通機関） ●自然体験 ●経済循環への参加と権利行使～労働とその対価、好きなものの消費（家族連携） ●消費者自立支援 ●デート支援 ●同年齢同性による集団活動 ●社会契約支援 ●施設外活動の企画参加 ●オフザジョブミーティング（教授学習）の充実 ※活動の多次元化	○性指導 ○SNS 活用のためのルール習得	同年、特定の友達、恋愛感情を持つ異性との関係を社会規範の中で深めながら自己の世界を広げ成人後の社会参加の動機形成を行ってゆく ・権利行使と責任 ・自己像の再形成 ・思春期支援 ・恋愛支援
	高校生	●地域外出（公共交通機関） ●経済循環への参加と権利行使～労働とその対価、好きなものの消費（家族連携） ●消費者自立支援 ●異性との交流活動（デート支援） ●同年齢同性による集団活動 ●就労支援 ●社会契約支援 ●地域活動の企画参加 ●オフザジョブミーティング（教授学習）の充実 ※活動の多次元化	○性指導 ○SNS 活用のための法令理解と自己管理 ○選挙支援	・同年、特定の友達、恋愛感情を持つ異性との関係を社会規範の中で深めながら成人後の社会参加の動機形成を行い安定した地域生活のために必要な具体的な手立てを企画する。 ・社会生活・地域生活のリハーサル ・権利行使と責任 ・自己像の再形成 ・思春期支援 ・恋愛の社会化

V 五領域と年齢に応じた発達課題

発達 年齢	運動 感覚	認知 行動	言語 コミュニケーション	人間関係 社会性	健康 生活
0 歳児	☐ 原始反射 ☐ 寝返り ☐ 吸引 ☐ 正面の成立 ☐ 追視（3 か月） ☐ 首や手腕の回転可 ☐ 逆運動の始まり（乳 児期前半） ☐ 対象的な姿勢獲得 ☐ 体の正中線の確立 ☐ 手腕指足などの末 端操作系が体幹から 独立	☐ 正面で認知したも のに手を伸ばして触 れようとする姿 ☐ 周りの物を点で捉 え外の世界につなが りを持つとする姿 ☐ ハイハイで目標物 を目指して移動 ☐ 目標物によって受 動的に移動が始まる ☐ 室内探索	☐ 発声に意味が表れ る（2 ヶ月）※その 意味を聞き分けるこ とが子育てのポイント ☐ 何かを伝えたい気 持ちの芽生え ☐ クーイング	☐ 受動的な生活の中 での主人公 ☐ 第三者の目視と微 笑 ☐ 親しい人に向けた 微笑 ☐ 外側の世界に向か う志向性の芽生え ☐ 物の受け渡しに応 じる（三項関係の成 立） ☐ 第三者の助けを得 て世界を広げてゆく	☐ 睡眠と覚醒のリズ ムが短い ☐ 哺乳 ☐ 保育環境の整備 ☐ 受動的な生活を充 実させるような環境 づくり
1 歳児	☐ 前庭覚・固有覚・ 触覚の覚醒 ☐ 指で小さな物を摘 まんで目標に向かっ てコントロール ☐ 体幹の中心線の強 靱化とそれに伴う指 先の微細運動の向上 ☐ 歩行距離の増加 ☐ 二つの世界が併存 していることの楽し さ→滑り台で場にお ける方向転換 ☐ 方向転換、回り道 が可能	☐ 直立二足歩行 ☐ 手指の操作性の向 上 ☐ 道具の使用目的と 手段の分化の芽生え ☐ 「目で見たものを まねようとする気持 ちの高まり ☐ 体験的学習が行動 を動機づける ※危険行為の予防防 止開始 ☐ 目の前にないもの をイメージできるよう になる（不十分な “つもり”の成立） ☐ 難しいことに挑戦 するがうまくできず にイライラを募らせ る ☐ 楽しいこと好きな ことを繰り返すこと ができる ☐ 激しい駄々こねイ ヤイヤによる二分的 な世界の構築→二つ の世界の間で心を揺 らしながら気持ちの 向きを変えてゆく ☐ 一次元的な気持ち の切り返しが可能と なる ☐ 自分への興味 ☐ 自分の名前を言え る	☐ 指差し ☐ 大人の世界を共有 する喜びを伝えよう とする叙述の指差し ☐ 自分の欲求をスト レートに指差しで訴 える姿。（目に映った 景色の叙述→意志や 欲求を主体的に表明 しようとする） ☐ 「アツアツ」「わん わん」などの喃語に よる一語文→話し言 葉の獲得 ☐ 二語文の獲得 （駄々こねの意味） 「○○ではない△△ だ」（一次元可逆操作 の獲得→切り返しの 土台）	☐ 他者と関わろうと する気持ちの高まり ☐ 友達の持っている 物が気になる ☐ 互いを意識しなが ら自分と同じ他者 （お友達）と一緒に いることの楽しさを 味わえるようになる。 ☐ 立ち止まって考え ようとする力、気持 ちの上で踏み切りを つけようとする姿が 見られる ☐ 自分を信頼する心 が他者との共有や他 者への働きかけを活 発にしていける	☐ まとまった睡眠量 の獲得 ☐ 手ごたえのある遊 具や体験ができるよ うな生活づくり ☐ 大人の助けを得て 広がってゆく生活

2 歳児	☐ 斜めの姿勢～何事にも対応できるぞという構えの成立 ☐ 固有覚を覚醒させるような抵抗感のある運動が欲しくなる（坂道上り・階段上り）	☐ 自分で自分を使いこなす力と主体が育つ ☐ もっともっとと繰り返し量的に拡大してゆくような活動を考える。 ☐ 五指数唱可能 ☐ 二つの物事を同時に抱え込もうとする力が現れる ☐ 駄々こねの「～でわなない～だ」を“修正”という行為に応用できるようになる ☐ 目標に合わせて身体機能を調整できるようになる。 ☐ 目的をもって道具を使う ☐ 回り道ができる。（目標を持って手段を選択） ☐ 物事を対比的に對で認知する ☐ 自分の所有権へのこだわり ☐ 自己を客体化しようとする中で志向の可逆性を高めてゆく ☐ 意図的行動の熟成	☐ 心に表彰を思い浮かべることができるようになる ☐ 言葉を聞いて目の前にないものをイメージできる。第二者との「共同注意」 ☐ 一語文の中に 5WH の異なった意味が萌し始める ☐ 一語文→多語文（助詞の登場） ☐ 会話の中で「なんで、どうして」と修正することが可能となる（他者と話す中で物事をとらえ直してゆく体験を求めるようになる） ☐ 大人の助けを借りて描画の中で生活の主人公となってゆく。（叙述しながら描画）	☐ 「つもり遊び」が実生活上の行為の「見立て遊び」に変化し始める（おままごと） ☐ 生活行為を共有する仲間との関係の芽生え ☐ 大人と同じように生活者として生活に参加したい気持ちが萌し始める	☐ 大人の助けを借りて自立してゆく生活 ☐ 次に至ろうとする成長の姿をイメージできるような環境づくり ☐ 年長者との異年齢と年少者との異年齢集団の中で生活できるような環境づくり（なるべく自分をプライドで地固め） ☐ 具体的な見通しと期待を生み出すような生活づくり
3 歳児	☐ イメージを持った体の動きが可能になる。 ☐ 三輪車のように二つの動きをまとめ上げてゆく力 ☐ 全力を出し切って走り抜こうとする（対の究極を追求する姿→対比的な対の感覚の強化） ☐ 微細な二次元動作（片手で紙を持ちながら片手で鋏を使ってイメージどおりに切る） ☐ 実際に覚えたイメージに沿って積み木を乗り物などの形に二次元構成	☐ 比較力の高まり ☐ 未知の物事に挑戦しようとするがうまくできない ☐ 自分の願いと現実のギャップのズレを乗り越えるために「より良い方法」を模索しようとする ☐ 二次元可逆操作○ ☐ しながら△△するのフル活用（食べながらおしゃべり） ☐ 体と対話し内部の体調に気づくことができる ☐ 数唱の順唱逆唱 ☐ 競争心に動機づけられる行動の増加 ☐ もっとじょうずに（朝鮮行為の繰り返し）	☐ 対比的な対をつくりながら語彙が飛躍的に増加 ☐ 助詞でつながる三語文以上の文脈構成 ☐ 自分の行動に理由を加えるようになる（○○だけど△△するの、なんでか？だって◇◇だから） ☐ 自分の行動を誇らしげに説明するための理由さがし（なんで？）が大人に対して頻出する。	☐ 少人数でのごっこ遊び（目に見えないルールを共有しながら友達同士の遊び合いに挑戦する） ☐ 集団生活に参加するために「自制心」を主体的に発揮しようとする意欲の高まり ☐ 自分が何でもできる年長者としてプライドを持って年少者の世話を焼きたいという気持ちの高まり ☐ 金銭を使って買い物をする意味を理解することができる	☐ 年長者、年少者、同年児童などと一緒に過ごす時間の確保 ☐ 内面の力量を活用して体を動かす機会の確保 ☐ 子どもたちの家庭を中心とする生活に對して大人たちが営む地域生活を見聞きし参加する機会が必要
4 歳児	☐ 描画能力の飛躍的な向上（基底線・太陽・人物などがストーリー性を持って登場する）	☐ 二次元可逆操作の確立（自分がしたくないと思うことでも創造的にイメージした理由で自分自身を励ましながやり遂げることができるようになる）	☐ 語彙数は 1500～2000 となり、まとめてから話すのではなく話しながらまとめてゆく段階（ここでも～しながら～する：二次元可逆操作が活きる）	☐ 相手からの評価に過敏になる ☐ 大人に褒められたという強い気持ちから自らを励まして困難に立ち向かおうとする姿が見られるようになる	☐ 子ども同士で地域行事季節行事に参加する機会が設けられた生活 ☐ 子どもたちと集団で遊びこめるような機会を生活の中に設ける

		☐ 仮定を創造して今探るべき自分の行動を考えることができるようになる（もし～だったら） ☐ 不思議・発見・実験（試行）を繰り返す日々 ☐ 意味の分解構成ができる ☐ 自分の得意不得意を知り分けたうえで自己肯定感の形成 ☐ 自分の意味をとらえ直すことができる ☐ 重い軽い～見えない質を認知することができる ☐ 「めだかは魚」「魚はめだか」と逆からも理解できるようになる ☐ 志向や行動の起点が明確化する	☐ 話したいことがいっぱい時期～聞いてあげるといふ家庭の養育上の役割とセットでさらに言葉の世界が豊かになってゆく。 ☐ 自分が伝えるべき何かがあるというよりも、聞いてもらえる安心感から「話したい」気持ちが高まってゆく ☐ 自分の過去の出来事を語れるようになる	☐ 大人の評価や基準を自分の内面に積極的に取り込んで社会感情を育てゆく ☐ 自制心を確固とした力として獲得してゆく（我慢する力） ☐ 年少者の世話焼き→教え役という関係に変化（相手の気持ちを大切にしながら補佐するような教え方が可能）※四歳児には前向きに挑戦を繰り返す三歳児とは異なって失敗した経験を反芻して気分が落ち込むU字現象があり、そうした内面を通して「慰め」や「思いやり」が芽吹く時期でもある。 ☐ 相手の気持ちや感情、考えに気づく ☐ ルールや意味を共有する小集団の形成 ☐ ※小集団は保育者による発達の関与を活動の中に丁寧に織り込んでゆくことが可能～四政治の段階ではこうした関与の在り方が必要	
5歳児 6歳児	☐ 体形は6頭身、心臓は6倍、脳細胞が6層配列に ☐ リズムやアクセントなどをきっかけにして瞬発力を発揮することができるようになる ☐ 体の動きが滑らかになりスピードに強弱をつけられるようになる ☐ 体の中心軸が強まり、それによって末端操作系の正確さが向上して自由度も広がる ☐ 相手の動きに合わせて自分の身体の動きを調整できるようになる ☐ 手腕指の巧緻性、協応度が高まり「包丁を使って」「怪我をしないように」「正確に」という三課題を一つの行動にまとめて上げて上手に「切	☐ 二次元可逆操作の力量の高まりと可能性を持って変化してゆく自分自身への意味づけによって「教授学習」という関係を構築することができるようになる ☐ 自分の成り立ちを様々な出来事に関連付けながら説明することができる（自己形成視～時間・空間・価値の三次元構成） ☐ 対比的な対認知で獲得した両極を支えとしてその中間を構成、系列化することができるようになる（どっちつかずの気持ちでとりあえず自分の行動を動機付けできるようになる→※発達障害児ではイライラやパニックの減少） ☐ 過去・現在・未来	☐ ルールに縛られて融通が利かない ☐ 経験をたどって接続詞を入れながら他者とのコミュニケーションが活発化する ☐ 書き言葉の発達 ☐ 文章の筋道や文脈が確からしさを増してくる ☐ 「嘘」の増加 ☐ ※時間軸の中で変化する自分を捉える力が乏しい場合、自分に対する期待と現実のギャップを埋めることができないことから本来であれば「自分は大きくなったら200m泳げるようになるんだ」が「自分は200m泳げるんだ」になってしまふという性質を持つ嘘	☐ ごっこ遊びの題材がリアル化してソーシャルロールプレイの様相を呈するようになる ☐ 属性理解の力量が高まると同時に交友範囲も広がりを見せ大人に知られないような秘密を共有する結社のような絆をはぐくんでゆく（自我形成への大切な一歩）～友達の組織化の中で模擬社会を作り出し社会生活をリハーサルしてゆく ☐ 生活経験が豊富な実年齢児童は公共交通機関を使って地域に外出してゆくことも可能 ☐ 労働と対価の意味を理解し責任と権利の関係を枠組みにして自分の行動を動機付けしてゆくことができるようになる	☐ 料理や清掃や舞台設定など大人の中に入って活動するする機会のもうけられた生活づくり（豊富な文化行事、季節行事） ☐ 書き言葉による叙述が思考力や自己統合力を高めてゆく時期。書き言葉で獲得した文脈や話の筋道を構成する力を用いて話し言葉を豊かにする感覚刺激と一体となった生活体験が得られるよう支援してゆく ☐ 家庭生活・学校生活と同時に子どもの成長発達のための独自の働きを果たしてゆけるような地域生活が豊かに展開充実できるよう学校家庭放課後が連携して生活の枠組み作りを進めることが必要

	る」ことができるようになる（三次元可逆操作）	の時間軸認知 □見た目の違いを乗り越えたところにある「違うけど同じ」という属性理解の力量が高まる		□スマホの使用に際してわきまをなければならないルールや性に関する規範を学習してゆくことが可能となる段階 □初恋や好きな異性の登場 □正義感	
--	------------------------	---	--	---	--

VI 発達 の 階層段階理論

マナの家では利用される方々の年齢に関わらず児童から成人まで「発達 の 階層段階理論」による子どもの状態像の把握とそれに基づく支援を提供しています。発達 の 階層段階理論は田中昌人(1932 年 1 月 22 日 - 2005 年 11 月 18 日:京都大学:日本の障害児教育学者・発達心理学者・教育者)が、糸賀一夫の近江学園。琵琶湖学園での長年にわたる教育実践を通して、1980 年代に確立された発達論で今でも教育や保育、発達診断（新版 K 式発達検査）、障害児支援の分野で広く活用されています。けれども現在我が国の障害児支援の現場では 2000 年代初頭から始まった福祉の基礎構造改革の流れの中で政府によって推奨されるようになった発達障害者への技術的な支援方法である「応用行動分析（ABA）」「構造化」「SST」など短期的に目に見える効果が確認できるとされる支援が今日に至るまで大変流行しています。しかしながら短期的効果が子どもの成長発達、ひいては充実した人生を生き切つてゆくための人格形成の土台となっているかどうかを長期的な視点で確認できるエビデンスは、ほとんど目にできないというのが現状で、十年以上先のエビデンスを確認しているデータを探し出すのは極めて難しいのです。また子どもの権利や障害を持つ方々の権利擁護の観点から評価するなら、発達障害者への技術的な支援によって子どもたちが本当に人間らしい人生の主体として成長を遂げられているのかという点については大きな疑問を感じないわけにはいきません。

物事を選んだり、いやなことを嫌だと意思表示したり、何よりも豊かな人生を送ろうとする時に障害のあるなしにかかわらず人間としての心の根っこでもある「人が好き」という感情を育み、他者と関係を構築してゆこうとする主体的な意欲を伸ばし、誰かとの関係性の中で自分自身を意味づけしながら社会に参加し、地域生活を送ってゆけるようになること、そのために成長発達支援は個人の「できる、できない」という外形的なスキルよりも子どもたちの内面の発達のメカニズムに着眼した支援、保育を考えゆく必要があります。そうするとそこには自立の前提となる大変重要な発達が見えてきます。それは「自我形成」です。その自我形成の根幹をなすものは社会や大人ではなく子どもたちの側に起点を持つ子どもたちの真の主体性、偽らざる気持です。しかし「応用行動分析（ABA）」「構造化」「SST」ではそうした子どもたちの内面に起点を持つ子どもたちの偽らざる気持ちを大切にするような支援を行うのは実際には難しいのではないのでしょうか。外形的な問題行動や生活の形を社会の側からの要求に沿って変容、または組み立て直してゆくことは行き過ぎると子どもたちの主体性を伸ばすことや自我形成の営み自体を妨げてしまうことすらあると感じています。なぜなら子どもたちの主体性の芽こそ「応用行動分析（ABA）」「構造化」「SST」などが消し去ろうとする問題行動であったり、失敗であったり、挫折の中に芽吹くものだからなのです。現在大流行している発達障害者への技術的な支援は、問題行動をなくしてしまう、失敗や挫折をしないで済むようにしてしまう、ということはできても、そうしたネガティブな子どもたちのズレや歪みの中にある子どもたちの真の主体性の萌芽に対して発達の意図をもって関与してゆくことをもともと想定しているものではありません。

日本の障害児支援の歴史は長く、そこには糸賀一夫や田中昌人に異論を唱える流派の方々も含めて多くの先人の教育者や保育者、支援者による数えきれないほどの実践記録が残されています。こうした記録に今どれだけの教師、保育者、支援者がアクセスできているのでしょうか。けれどもそこには子どもの成長発達に携わる者にとって尽きることのない気づきの金言が山のように眠っています。私たちマナの家はそうした金言の宝庫を今に伝える全国障害者問題研究会の研究者や資料に、そして日々施設にやってくる子供たちの様々な姿に学びながら、糸賀一夫の発達保障という思想の理論的支柱として田中昌人が確立した発達 の 階層段階理論をベースにした支援を行っています。そしてそのうえで必要に応じて発達障害者への技術的支援である「応用行動分析（ABA）」「構造化」「SST」を適宜活用しています。当施設のある山武地域の日向という地には実はかつて糸賀一夫が手掛けた授産施設がありました。けれども郷土資料を見ても誰に聞いてもう覚えている人はいません。子どもたちや家族をできるできないという二極の評価で追い詰めてゆくのではなく、子どもたちが権利の主体として地域生活を送ってゆけるように、その為に必要な力量を高めてゆく「やりたいのにできない、できるのに失敗してしまう、できなさの中に次の発達のステージにつながってゆく芽が萌してゆく」そのような視点を大切にしたい保育をもう一度障害児支援の主要基盤に据え直してゆくムーブメントを起こしてゆかなければと考えています。「この子らを世の光

に」という糸賀一雄の言葉の意義を未来に伝えてゆこうという人たちの数はここ半世紀の間に減少しているのも事実ですが私たちマナの家ではそのための働きを今後も山武圏域で継続してゆきたいと考えています。

VII その他の技術的支援

*ムーブメント *応用行動分析 *TEACCH * (モンテッソーリ法)

VIII ご家族の皆様へ～今年度より事業所の支援プログラムの公表が義務付けられました

マナの家では水泳教室や塾やサッカークラブのような子ども向けのカルチャー教室のようなプログラムは行いません。子どもたちは就学すると三つの場所で三つの育ちをそれぞれ深めながら成長し自我形成、成人期的人格形成に至ってゆきます。特に放課後での子供たちの育ちの課題は学校での育ちの課題とは180度違います。違うからこそ連携が必要なのであって、放課後支援を学校の補習のような時間として考えている放課後事業所が少ないようですが、子どもの成長発達や権利擁護を考えると憂慮を禁じえないのが正直なところですが。こうした学校の評価基準に隷従した補習型放課後等デイサービスで行われている活動が子どもを単に社会規範の中に押し込んでゆくような流れを強めてしまうと障害を持つ子どもの場合は人間形成や情緒行動面の成熟にマイナスの影響が出やすいものと考えます。障害を持つ子どもたちは社会に生産的な還元ができないのだから余計なわがまは言わずに一般社会のじゃまにならないようにおとなしく暮らしていればそれでよい、と考えるなら放課後の時間を学校と同様に社会の側の要求に子どもたちを従わせる時間にしてしまえばよいでしょう。でも私はそうは思いません。多くの方々、国や県職、基礎自治体の皆さんもそんな放課後を過ごしてきたという人は少ないのではないのでしょうか。現在、これも問題は山積みですが相談支援というパーソナルアシスタントの制度があります。けれども子どもたちが相談支援専門員の前で「僕こうしたい」「私はそんなの嫌だ」を言い出せないならケアマネジメントそのものが成り立ちませんし、せつかくの制度も宝の持ち腐れということになってしまいます。T頃がそのような子どもが多いのです。この相談支援の制度をフルに活用して差別のない豊かな人生を生き抜いてゆくためにも子どもたちにとって自分の意思を表明する力の源泉となる自我を形成してゆくことはたいへん重要です。そしてその土台となるのは子どもたちの側に起点を置く、自由度の高い、主体的なエネルギーの発露のための子どもたちが主人公となって過ごす囚われのない放課後の時間なのです。きっと障害を持つ子供たちにとって放課後等デイサービスという制度はなくてはならない子どもたちにの権利の砦ともいえるものです。マナの家では週課の様な形で「〇〇療育の日」などというような形式的なプログラムは積極的には作らない方向です。これも子どもたちの真の成長発達のためとご理解ください。今子どもたちが外形的に優等生のような姿を示さなくても、その効果は成人期を迎えたときに必ず実を結んでゆきます。マナの家では来所されるお子様の状態像を分析して必要な発達課題を見極めたうえで適宜オーダーメイドの支援を提供しています。実際の支援の様子はホームページから Facebook のリンクを開いてご覧ください。よろしければ Facebook の最初に貼り付けてある“地域での育ち「遊育」”もご一読ください。開設以来のマナの家の支援方針について記載しています。また見学ご質問、療育発達相談も随時お受けしています。お気軽にお問合せください。